

(2) セグメントスケール項目

【参考資料 I -241参照】

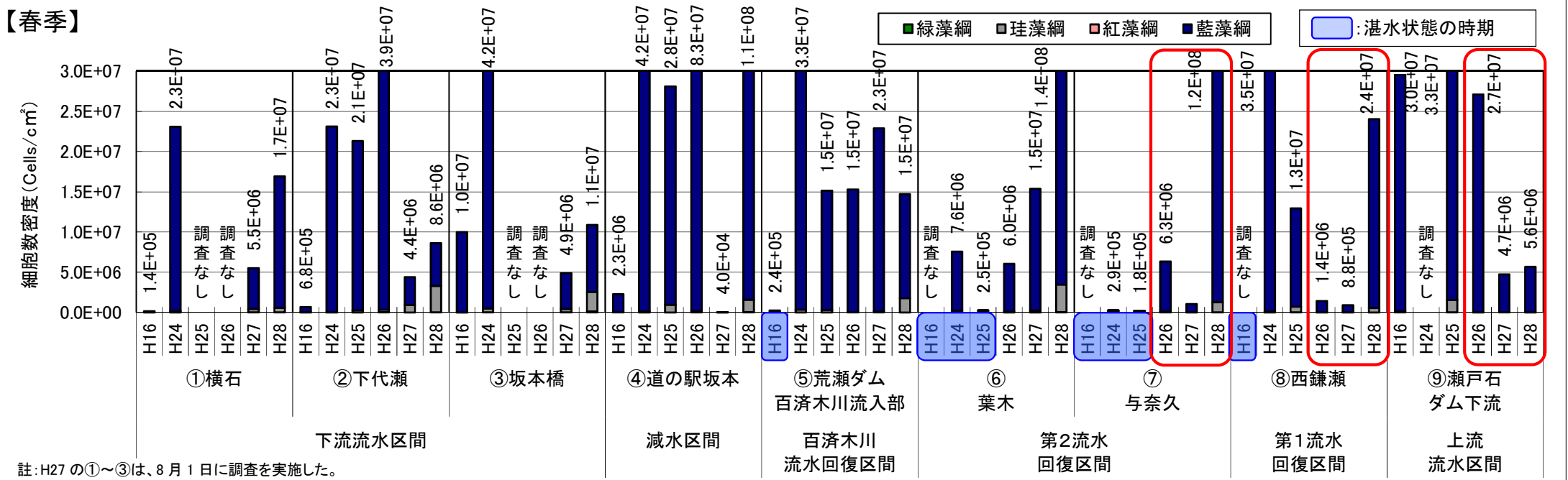
1) 付着藻類

1 付着藻類（調査日 春季：平成 27 年 5 月 13 日（但し、①横石・②下代瀬・③坂本橋は 8 月 1 日）、平成 28 年 5 月 27 日（但し、①横石・②下代瀬・③坂本橋は 6 月 2 日）、冬季：平成 28 年 1 月 19～20 日（但し、①横石・②下代瀬・③坂本橋は 1 月 15 日）

評価項目	視点	調査結果概要	評価概要
経年的な変化状況	付着藻類の細胞数密度	・平成 27 年度は、平成 26 年度と比べて春季に細胞数密度が下がった地点もあったが、平成 27 年度冬季や平成 28 年度春季は増加の傾向がみられる。 ・構成種は藍藻綱の割合が高く、冬季は春季に比べて珪藻綱の割合が大きくなる傾向にあった。また、冬季の「⑥葉木」～「⑨瀬戸石ダム下流」では H26 年度と比べ藍藻綱の割合が大きくなっている。	・②下代瀬の冬季を除き、アユの摂食圧を受けても一定の現存量を保つ高い生産力を維持する <i>Homoeothrix janthina</i>（ホモエオスリックス・ヤンチナ）が優占しており、アユの採餌環境としては良好な状態にある。

付着藻類の細胞数密度

【春季】



No.1

Homoeothrix janthina

分類: 藍藻綱 ネンジュモ目 ヒゲモ科

注: 写真は本業務で作成

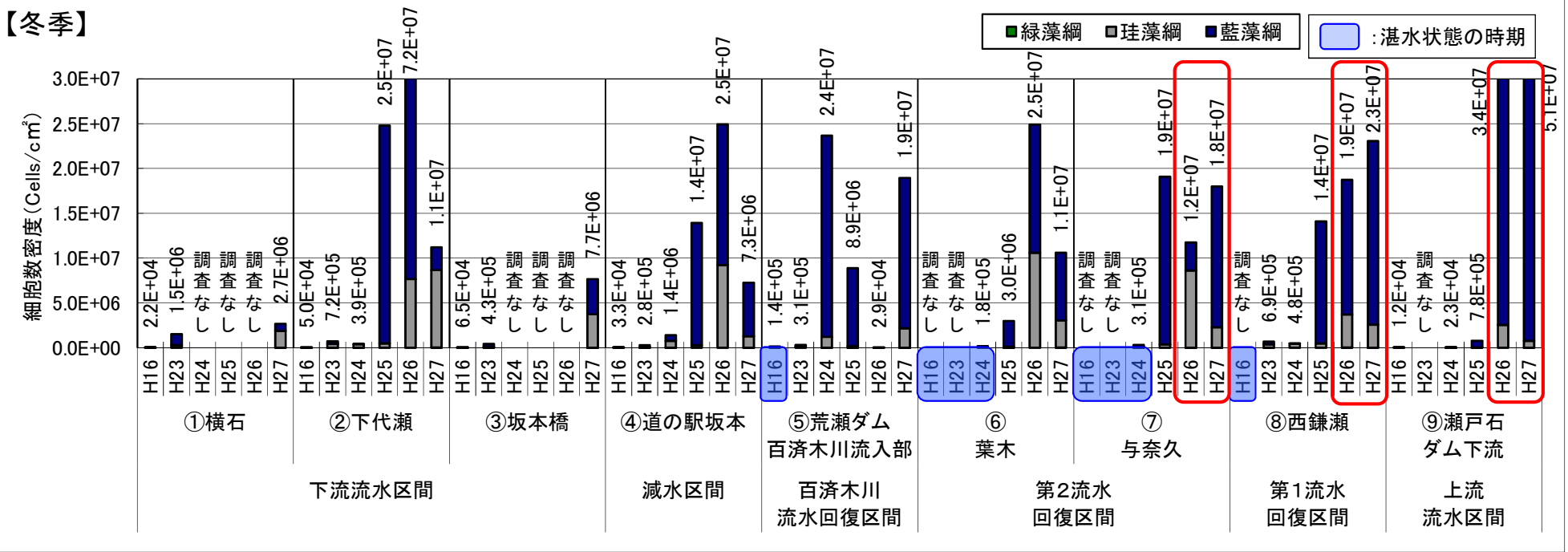
分布状況

・淡水、付着性、低地から山地まで。流水に多く、湿岩上に生育することもある。汎布種。

・日本国内に広く分布する着生種。

・本邦河川の瀬における最も代表的優占種。

【冬季】



【用語の解説】

- ・藍藻綱：細胞の中にははっきりとした核のない原核生物であり、群体を形成し黒っぽく見えることが多い。流速が速く、石礫上に堆積物が少なく、アユによる摂食が盛んな箇所で優占していることが多い。代表種として、*Homoeothrix janthina*（ホモエオスリックス・ヤンチナ）が挙げられる。
- ・珪藻綱：ガラスの成分である珪酸でできた殻を持ち、黄褐色に見えるのが特徴である。流速が比較的遅く、古い石の付着物が残る箇所で多い傾向にある。代表例として、*Gomphonema* 属（クサビケイソウ属）が挙げられる。
- ・緑藻綱：細胞中に緑色の色素を多く含むことから、色鮮やかな緑色に見えるのが特徴である。この仲間の中には、大型糸状緑藻となって繁茂し、アユの餌となる藍藻や珪藻が付着する石を被うカワシオグサがある。

2 付着物

評価項目	視点	平成 27 年度の調査結果概要	評価概要
経年的な変化状況	付着物量	・有機物の割合は、「⑥葉木」及び「⑦与奈久」では、湛水状態の時期に比べ高い状態を維持している。 ・クロロフィル a は、全体的に春季よりも冬季が多い傾向にあるが、「⑥葉木」及び「⑦与奈久」では、H26 年度以降に湛水状態の時期に比べ高い状態を維持している。	・流水回復区間では、流水環境に変化後に有機物の割合及びクロロフィル a が増加しており、H27 年度もその状態を維持している。

付着藻類の付着量

— : 標準偏差

